

会社概要 (2015年3月31日現在)

創立	1896年10月15日		
資本金	104,484,658,872円		
従業員	(単体)15,196名 (連結)34,623名		
本社	(神戸)神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 (東京)東京都港区海岸1丁目14番5号		

役員 (2015年6月25日現在)

取締役社長	村山 滋			
取締役副社長	井城 讓治			
常務取締役	井上 英二 肥田 一雄	金花 芳則 富田 健司	村上 彰男 久山 利之	石川 主典 太田 和男
取締役	森田 嘉彦 福田 秀樹			
監査役	村上 雄二	芝原 貴文	藤掛 伸之	鳥住 孝司
常務執行役員	衣斐 正宏	成松 郁廣	門田 浩次	
執行役員	河野 行伸 橋本 康彦 三村 利行 餅田 義典 山本 克也	小河原 誠 渡辺 達也 猫島 明夫 小島 俊文 原田 英一	阿部 元一 大畑 健 山田 勝久 福島 賢一 本川 一平	岩崎 宏治 浅野 剛 並木 祐之 山地 仙志 堀内 勇二

大株主 (2015年3月31日現在)

株主名	所有株式数	比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	81,038,000	4.85%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	61,006,000	3.65%
株式会社みずほ銀行	59,207,773	3.54%
日本生命保険相互会社	57,516,659	3.44%
JFEスチール株式会社	56,174,400	3.36%
JP MORGAN CHASE BANK 38055	47,184,020	2.82%
川崎重工共栄会	34,412,192	2.05%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	30,577,999	1.83%
川崎重工業従業員持株会	28,805,217	1.72%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	28,089,000	1.68%

株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数	3,360,000,000株
発行済株式総数	1,670,805,320株
株主総数	112,683名

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月下旬	
基準日	定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日

株主名簿管理人及び特別口座の管理機関
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所
〒540-8639
大阪市中央区北浜4丁目5番33号
TEL:0120-782-031(フリーダイヤル)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

ご案内

○単元未満株式をご所有の株主様へ

当社は、2013年8月に単元未満株式の買取・買増制度のご利用時にかかる手数料を廃止いたしました。単元未満株式(1,000株未満)は、市場での売却ができないだけでなく、株主総会での議決権行使ができないなど、一部の権利が制限されております。

単元未満株式をご所有で、株式の売却、単元株式(1,000株)への買い増しなどをご検討されている株主様は、これを機会にぜひご利用ください。

例1)800株をご所有の株主様

買取請求により800株を売却いただくか、200株を買い増していたことで(買増請求)1,000株にまとめることができます。

例2)1,800株をご所有の株主様

買取請求により800株のみ売却して残り1,000株を引き続き保有いただくか、200株を買い増していたことで(買増請求)、所有株式数を2,000株にまとめることができます。

詳細なお手続につきましては、お取引のある証券会社又は三井住友信託銀行(下記)までお問い合わせください。

○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
TEL:0120-782-031(土・日・祝日を除く 午前9時~午後5時)

今回の表紙

今回の表紙は、P.05-08でご紹介した、トルクメニスタン向けマリン肥料プラントを掲載しました。このプラントは、日本企業が同国において直接契約した最初の大型プロジェクトで、アンモニアを1,200トン/日、尿素を1,925トン/日生産します。2014年10月には、同国大統領をはじめ、マリ市長、諸外国大使が列席されるなか、盛大に開所式がとりおこなわれました。



Business Report

第192期通期

2014年4月1日→2015年3月31日

【特集1: Product introduction】

トルクメニスタン 肥料製造プラント

中央アジアの平原に
産業振興の花を咲かせる。

【特集2: 社会を拓く
—未来へつなぐKawasakiの技術—】

水素社会の 未来を切り拓く。



川崎重工業株式会社
証券コード:7012

Kawasaki
Powering your potential

切り取ってご利用ください
カワサキワールド
Kawasaki Good Times World
株主様ご招待券(3名様無料)
2016年6月30日まで有効

川崎重工業株式会社
TEL:078-371-9533(総務部株式担当)



UD FONT
この報告書は見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



株主の皆様へ

第192期の現状と業績見通しについて



川崎重工グループは、世界経済全体が総じて緩やかな成長を見せるなか、過去最高益を達成するなど、好調な業績を確保しました。このような経営環境における当社グループの現状と今後の展望について、村山社長に聞きました。

なお、第192期の業績の詳細については、13ページ以下に記載のとおりです。

Q1.「中計2013」の進捗状況と2015年度(第193期)への取り組みについて聞かせてください。

2013年度(第191期)より取り組んできました当社グループの中期経営計画「中計2013」も、いよいよ総仕上げの年を迎えています。現在、当社グループでは「企業価値の向上」を合言葉に、グループ一丸となって「Kawasaki-ROIC経営」^(※)を推進しており、本中計期間においても確実に効果が表れています。

業績の面では、2013年度の当期純利益に続き、2014年度(第192期)は営業利益、経常利益、当期純利益(2期連続)の全てにおいて過去最高益を更新するなど、当社グループの収益力強化の証を実績で示すことができました。さらに、当社グループの喫緊の課題として注力してきました有利子負債の削減についても、フリー・キャッシュ・フローの大幅な

増加により、Net D/Eレシオが100%を下回る水準にまで改善しており、これらを踏まえ、2期連続の増配も実施しています。

2015年度の業績についても、現時点の計画においては、本中計期間を通じて成長著しい航空宇宙事業などがけん引役となり、「中計2013」における最終年度の業績目標をさらに上回る、売上高1兆6,500億円、営業利益1,020億円、経常利益1,000億円、税前ROIC11.8%を見込んでいます。本目標を達成し、3期連続増配の実現性を高めていきたいと考えています。

※常に3年~5年先を見据えた中長期的な視点で、事業の成長性をビジネス・ユニット(BU)単位で確認しながら、会社全体の持続的成長と将来にわたる企業価値の向上を目指す当社グループの経営方針。

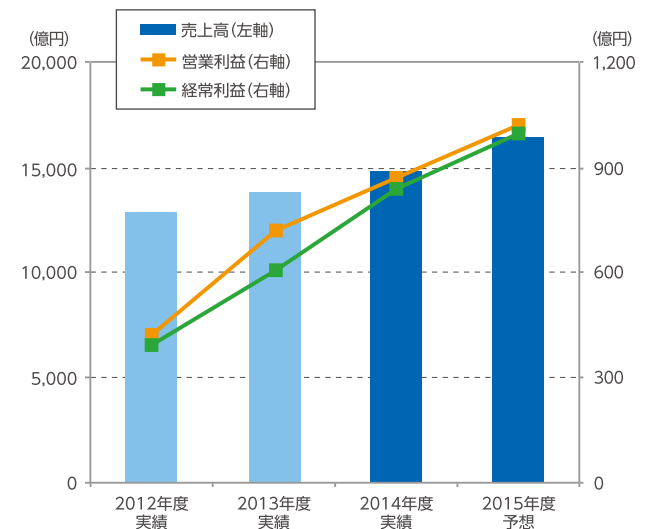
Q2.「グループ経営モデル2018」について教えてください。

昨年公表しました「グループ経営モデル2018」は、当社グループが現状に満足することなく、常に成長にむけた強い気持ちを持ち続けるために定めたものであり、各事業部門が目指すべき2018年度の姿を、具体的な数量モデルとそれを実現するための成長戦略として纏め上げたものです。

本モデルでは、2018年度のあるべき経営指標を、税前ROIC12%以上、営業利益率6%以上、Net



【連結業績の推移】



■前提為替レート
2015年度：118円/ドル、128円/ユーロ ※2015年4月28日発表時のレート

D/Eレシオ70~80%、総資産回転率1.00回転以上としており、資本効率や会計上の利益に加えて、キャッシュ・フロー重視の姿勢も明確に打ち出しています。また、事業部門を構成するBUごとに、中長期的な成長シナリオを描いたうえで、BUの事業特性に応じて事業分野を次の4つに分類し、それぞれの成長戦略を纏めています。具体的には、《航空輸送システム》は「10年後以降の将来を見据えた重点投資」、《陸・海輸送システム》は「グローバル体制強化と高付加価値戦略」、《エネルギー環境》は「ソリューションビジネスの強化

と将来にむけた事業基盤整備」、そして、《産業機器》は「新分野への取り組みと経営資源の共有化」と、分野ごとの戦略を明らかにしています。さらに、収益性、安定性、成長性の面でバランスの取れた事業ポートフォリオ（構成）を追求し、経営環境の変化に左右されない強靱な企業体質を構築していく考えです。

今年度は2016年度からスタートする「中計2016」の策定にむけた準備期間となりますので、本モデルを基本に詳細なアクションプランを検討していく予定です。

次期中計策定を見据え、企業価値のさらなる向上にむけて、取り組みます。

[グループ経営モデル2018 (数量目標)]

	2013年度実績	2014年度実績	2015年度見通し	グループ経営モデル2018
税前ROIC	8.1%	10.4%	11.8%	12%以上
ROE	11.0%	12.9%	15.0%	14%以上
営業利益率	5.2%	5.8%	6.2%	6%以上
営業キャッシュ・フロー	1,517億円	1,276億円	1,100億円以上	1,100億円以上
Net D/Eレシオ	109.3%	83.9%	80~90%	70~80%
総資産回転率 (参考値:売上高)	0.89回転 (13,854億円)	0.89回転 (14,861億円)	1.00回転 (16,500億円)	1.00回転以上 (18,000億円)
前提/実績為替レート	99.63円/\$	109.51円/\$	118円/\$	100円/\$

(注)・ 税前ROIC = EBIT(税前利益+支払利息) / 期末投下資本(借入債務+自己資本)
 ・ ROE = 当期純利益 / {(前期末自己資本+当期末自己資本) / 2}
 ・ Net D/Eレシオ = (借入債務-現預金) / 自己資本
 ・ 総資産回転率 = 売上高 / 期末総資産 ※総資産回転率については、19ページ「Point1」をご参照ください。

Q3. 最後に、株主の皆様へひと言お願いします。

前述の取り組み以外にも、当社グループは将来の成長にむけた布石を着実に打っています。例えば、当社グループが他社に先駆けて研究開発に取り組みできました水素のエネルギー利用やロボット製品の医療活用などが、社会の要請も伴い、本格的に始動しつつあります。また、先ほども述べましたが、2015年度は当社グループ史上初となる1,000億円台の営業利益・経常利益の達成も視野に入っており、当社グループにとって、新たなステージの幕開けを迎えていると

言っても過言ではありません。

株主の皆様にも、当社グループのさらなる躍進にご期待いただきますとともに、成長する姿を末永く見届けていただきたいと思います。今後もよりいっそうのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

むらやま しげる
 取締役社長 村山 滋

中央アジアの 平原に産業振興の 花を咲かせる。

【トルクメニスタン 肥料製造プラント】

2014年10月、川崎重工は、トルクメニスタン東部マリ市において、同国最大のアンモニア・尿素肥料製造プラント（以下マリ肥料プラント）の建設工事を完工しました。また、同年8月にも世界最大規模の天然ガスからガソリンを製造するGTG(Gas To Gasoline)プラントを受注するなど、同国における当社の取り組みは高く評価されています。今回は、高成長を続けるトルクメニスタンの発展に寄与する当社の肥料プラント事業についてご紹介します。



豊富な天然ガスを新興国の礎にするために

トルクメニスタンは、天然ガスの埋蔵量世界第4位、経済成長率世界第6位と、新興国のなかでも高成長を続けている国で、天然ガス・石油に加えて綿花を重要な輸出品目とし、政府も農業振興に注力しています。

当社の建設したマリ肥料プラントは、天然ガスを原料に、綿花などの栽培に必要な肥料（尿素）を製造する設備で、トルクメニスタンの豊富な天然ガス資源を、エネルギー利用のみでなく、工業製品としての利用にも広げることのできる付加価値を高めることができます。



マリ肥料プラント周辺の風景



初採取した肥料（粒状尿素）



当社初の肥料プラント（ナイジェリア）

世界とともにあゆんできた肥料プラント事業

当社の肥料プラント事業は、1978年に世界有数のエンジニアリング会社MWケロッグ社（現KBR社）との協業により受注したナイジェリア政府向け案件に始まりました。これは、肥料プラントの機器供給者としての実績が評価され、受注に至ったもので、当社への信頼の礎となった案件です。また、2001年には、当時の中国最大規模の案件に新技術を初めて導入することで省エネルギー化を実現し、高い評価を得ました。その後も、MWケロッグ社に加えてスタミカーボン社との協業によって、イランやパキスタン向けなどにも大型肥料プラントの建設実績を重ね、多くの国の発展を支えています。



トルクメニスタン最大の生産能力 高効率・省エネルギーも同時に達成

マリ肥料プラントは、肥料製造の主要部分であるアンモニアプラント・尿素プラントに加え、発電・水処理・窒素製造などの付帯設備から構成されています。同プラントにおいては、MWケロッグ社からのアンモニア製造の技術に加え、スタミカーボン社からの尿素製造の技術を、当社の総合エンジニアリング技術により相互に機能させることで、高効率化・省エネルギー化を実現しました。

1 アンモニアプラント

天然ガスと大気を加工し、脱炭酸工程を経て水素と窒素を取り出し、合成してアンモニア・二酸化炭素を製造します。

天然ガス

アンモニアプラント

2 尿素プラント

アンモニアプラントで製造したアンモニアと二酸化炭素を合成することで、液状尿素を製造し、乾燥・造粒工程を経て、粒状尿素を製造します。

尿素プラント



建設中の尿素プラント

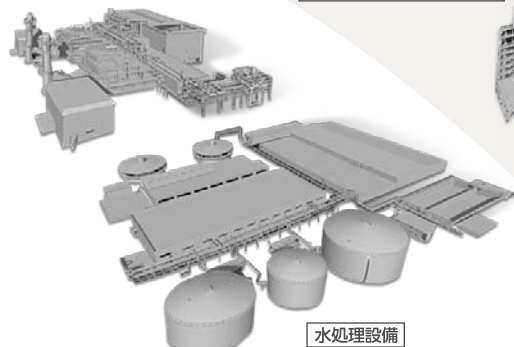
3 綿花栽培へ～

尿素プラントで製造した粒状尿素は、肥料として綿花の栽培に利用します。



綿花畑

発電用設備



水処理設備

トルクメニスタン政府系企業と 現地技術者のチームワークが達成したもの。



プラント・環境カンパニー
化学・低温貯槽プラント総括部
化学プラント部 設計一課
基幹職
船引 隆宣

マリ肥料プラントは、日本企業として初のトルクメニスタンにおける大型プロジェクトであったため、多くの課題がありました。例えば、GOST規格と呼ばれる旧ソ連加盟国独自の標準規格へ設備設計の適用や大型機器の通関、同国内での輸送などにおける各種許認可取得は、大変苦労しましたが、客先や現地の工事会社と協力し、これらを乗り越えることができました。

建設の際も、当社の担当であるプラントの設計、機器調達のみでなく、現地工事や試運転



建設中のアンモニアプラント

においても現地工事の会社と深くかわり、協力することで、工期に大幅に遅れることなくプロジェクトを無事完遂することができました。

現地では、客先であるトルクメニスタン人や現地工事会社のトルコ人達と激しく議論する場面もありましたが、彼らの人懐っこい性格に救われることも多かったです。様々な困難はありましたが、プロジェクトが完遂できたことを両国の人々に感謝申し上げたいです。当社としては、今後もトルクメニスタン及び中央アジア地域の発展に寄与していきたいと考えています。

TOP INTERVIEW

プラント・環境カンパニーの海外事業と今後の取り組みについて

当社のプラント・環境カンパニーが取り組んでいる海外案件は、資源国・新興国を中心としたエネルギー・環境分野における設備投資が主なものとなっています。

これらの案件については、原油価格の下落や地政学的リスクの高まりといった不安要因はあるものの、これからも総じて堅調な需要が期待されると考えています。

今回ご紹介したマリ肥料プラントの順調な進捗が評価され、2014年8月にトルクメニスタンで新たに契約

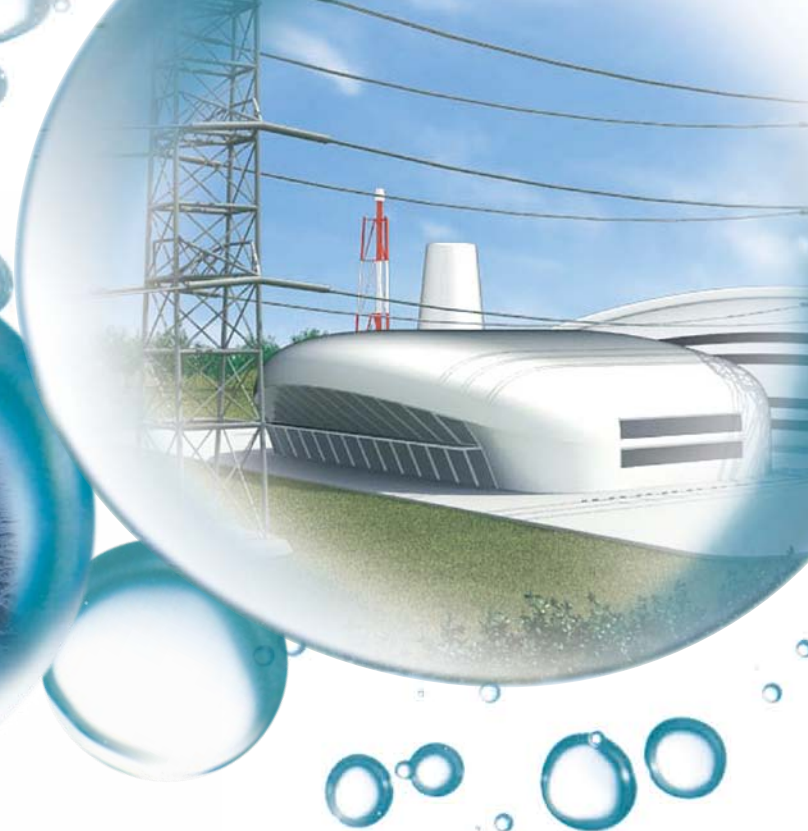
調印したGTGプラントは、当社にとって初めての取り組みとなるプロセスですが、このプロジェクトを無事完遂することで、トルクメニスタン国内のみならず中央アジア、ロシアなど周辺国における当社のプレゼンスを大いに高めると同時に、石油化学プラント方面の新しいビジネス展開にもつながるものと期待しています。今後とも株主の皆様にはご理解とご支援を宜しくお願いいたします。



常務取締役
プラント・環境カンパニー
プレジデント
井上 英二

水素社会の未来を切り拓く。

近年、クリーンエネルギーとして注目を集める水素。川崎重工では、水素の活用におき、他社に先駆けて2009年より研究開発を進めており、水素社会の実現に必要な技術の開発と製品化に取り組んできました。今回は、水素による人々の豊かな暮らしの実現に向けた当社の将来構想についてご紹介します。



究極のクリーンエネルギー「水素」

水素は、エネルギーとして使用する際、水しか排出しないため、低炭素社会実現におき様々な方面から注目を集めています。

経済産業省では、2014年に閣議決定された「エネルギー基本計画」を受け、「水素・燃料電池戦略ロードマップ」を策定し、電気・熱に水素を加えた新たな2次エネルギー構造やCO₂フリーの水素供給システムの構築などを明確に打ち出しています。また、東京都においても、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの水素活用を見据えた会議体が発足し、民間企業でも世界初の燃料電池車が発売されるなど、国や地方自治体、民間企業が一体となり、水素社会の実現におき大きく動きだしています。

水素エネルギーサプライチェーン構想

水素社会の実現には、水素エネルギーサプライチェーンの構築が課題のひとつとなっています。

当社の構想は、水素液化プラントなどの「製造分野」、液化水素運搬船などの「輸送分野」、液化水素貯蔵タンクなどの「貯蔵分野」、水素ガスタービンなどの「利用分野」から成り、必要とされる主要機器を幅広く、水素エネルギーサプライチェーン全般にわたってシームレスに供給する構想です。

構想実現には、広範な技術が必要であり、当社の各事業部門や技術開発部門の技術者が長年培った技術を集約し、いっそうの技術シナジーを創出することで、同分野におけるビジネスの優位性を確保していきます。

川崎重工グループが創る 未来の水素チェーン

水素は様々なものからつくることができます。当社はその中から、未利用資源の一つである豪州の褐炭に着目しました。褐炭は、乾燥すると自然発火しやすいため、大量・長距離輸送が困難な資源です。したがって、国際取引も皆無なため、大半が未利用資源となっています。また、日本の総発電量の240年分※という豊富な埋蔵量もあり、一般的な石炭よりも低価格で入手可能で、安価で安定した水素の製造に最適な資源です。ここでは、その水素製造から利用までのプロセスと当社の取り組みについてご紹介します。

※豪州ビクトリア州の将来的な褐炭可採埋蔵量(ビクトリア州報告資料)から算出



水素をつくる

当社の構想では、褐炭から取り出した水素を-253度の極低温で液化して輸送します。当社では、すでに水素液化システムの実証設備を建設し、純国産では初の水素液化に成功しています。特に、同設備の主要機器である水素液化機は、LNGの取り扱いやガスタービンの開発で培った技術などを、当社のプラントエンジニアリング技術によって高度に集約することで実現しました。



豪州ラトロブバレー
褐炭採掘現場



水素液化システム実証設備

水素をはこぶ

当社では、世界初の液化水素運搬船の開発に取り組んでいます。これは、当社が30年来取り組んできたLNGの海上輸送の技術の蓄積がなせる業であり、すでに容積2,500m³級のタンクの基本認証を日本海事協会より得ており、2020年までに実証船建造の予定で、さらなる大型化も計画しています。



水素チェーン実証段階の
小型液化水素運搬船



水素チェーン普及期の
大型液化水素運搬船

水素をためる

水素を国内で利用するためには、液化水素貯蔵タンクや輸送用コンテナも必要です。これらは、JAXAにロケット燃料用として当社が納入して以来、長きにわたる運用実績があります。今後は、LNGタンクで培った技術を活かし、現在運用されている液化水素タンクの容量540m³から、2020年までに3,000m³、その後は5万m³までの大型化を目指し、研究開発を進めています。



液化水素貯蔵タンク



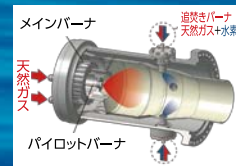
液化水素コンテナ

水素をつかう

水素活用では、石油精製などの工業用途に加え、水素発電や燃料電池車などのエネルギー利用の拡大を見込んでいます。当社では、既存の天然ガス焚きのガスタービンに水素を混焼させ、環境負荷を低減する世界初の技術※を開発しており、今後明石工場内の発電設備において商用化に向けた実証運転を重ねるとともに、水素専焼ガスタービンの開発も進めています。※水素ガス混焼時にNOx値を天然ガス焚き並みの25ppm以下に抑制する技術(体積あたり60%水素混焼、O₂=15%換算)。



水素混焼ガスタービン



水素混焼ガスタービン
燃焼器解組図

INTERVIEW

「水素社会の実現へオールカワサキで取り組みます。」

当社では、2009年から水素関連のサプライチェーンを支える技術開発を本格化しました。そして現在、その実証化を目指し、各技術の開発にまさに“オールカワサキ”で取り組んでいる最中です。

当社が他社に先駆けて水素事業に注力してきたのは、CO₂の排出量の大幅削減と経済負担の最小化の両立のためには、水素エネルギーの普及が重要であり、その実現に必要な技術と当社既存技術との親和性が高かったからです。例えば、LNG運搬船やタンク、ロケット基地関連の水素インフラなどで長年培った技術や生産設備、人的資源などが、当社の掲げる

水素サプライチェーンに応用できます。

国の構想では、2020年代から水素発電が導入され、国内での水素供給が追い付かなくなります。そこで、当社が長年培った幅広い技術と、それを応用・発展させた水素関連技術が強みを発揮します。

今後は、2020年を目処に水素サプライチェーンの成立性を実証したいと思います。そして、水素需要がさらに高まるとされる2030年頃までには各機器の大型化を図り、水素社会を実現させ、世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献していきます。



技術開発本部
水素チェーン開発センター
副センター長・理事
西村 元彦

営業利益・経常利益・当期純利益の全てで過去最高益を達成

当期における世界経済は、緩やかな成長が継続する一方、米国の金融政策動向や原油価格下落による資源国経済への影響などには注視が必要です。国内経済は、海外景気下振れによる国内経済への下押しリスクが懸念されるものの、円安基調による輸出企業の収益改善などを背景に、引き続き緩やかな成長が期待されます。このような経営環境のなか、当社グループは、受注・売上・利益面の全てで前期を上回り、特に、営業利益・経常利益・当期純利益は過去最高益となりました。

来期(第193期)につきましては、先進国経済の回復などを背景に、車両事業等を中心に売上高の増加を見込んでいるほか、生産性向上など収益改善諸施策の継続により、売上高1兆6,500億円、営業利益1,020億円、経常利益1,000億円、当期純利益は690億円を計画しております。配当金につきましては、当期は1株あたり10円(中間3円、期末7円)とし、来期は12円(中間5円、期末7円)を計画しております。

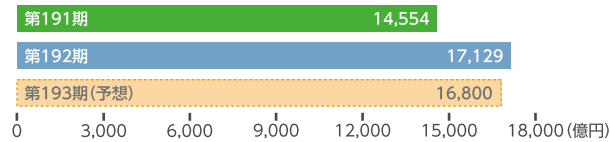
決算ハイライト(連結)

■前期 / ■当期 / ■予想

受注高

17,129億円
前年度より2,575億円増加

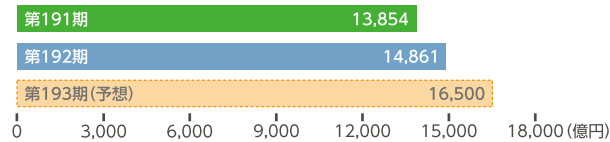
プラント・環境事業や航空宇宙事業、船舶海洋事業などで増加しました。



売上高

14,861億円
前年度より1,006億円増加

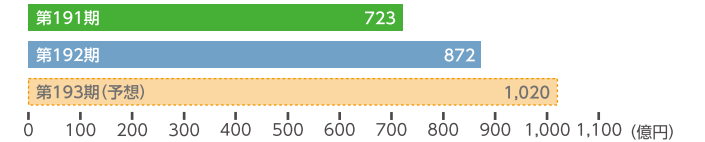
航空宇宙事業やガスタービン・機械事業などで増収となりました。



営業利益

872億円
前年度より149億円増加

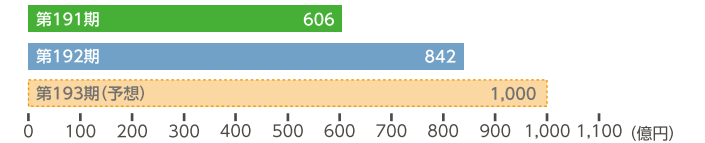
航空宇宙事業をはじめとしたほとんどの事業で増益となりました。



経常利益

842億円
前年度より236億円増加

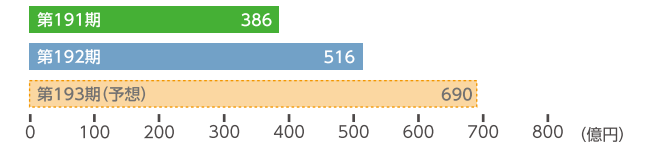
営業利益の増加に加え為替差損の減少などにより、増益となりました。



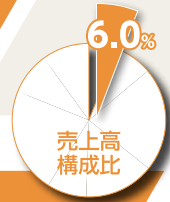
当期純利益

516億円
前年度より130億円増加

税制改正による繰延税金資産の一部取崩の影響があったものの、営業利益の増加により増益となりました。



※1 業績予想などは、合理的と判断するデータに基づいて作成し、2015年4月28日に開示したものであり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績は予想と異なる可能性があります。
 ※2 本社部門に係る費用の一部(54億円)を各事業部門に配分していないこと、及び億円未満の数字の切捨てにより、連結営業損益の全社合計(872億円)と「事業分野別の業績」合計(923億円)が一致していません。



船舶海洋事業

受注高 前年度より大幅な増加

- 潜水艦1隻や液化ガス運搬船(LNG運搬船、LPG運搬船)5隻の受注などにより増加

売上高 前年度より増収

- LPG運搬船やばら積み船などの建造量が減少したものの、LNG運搬船の建造量の増加などにより増収

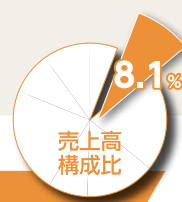
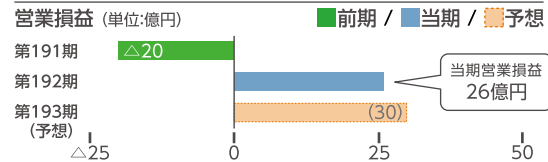
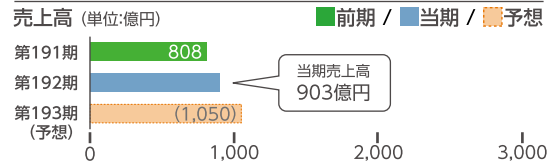
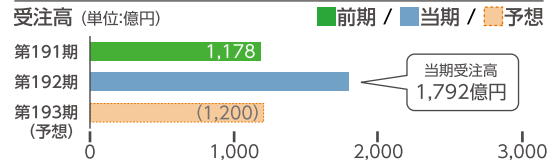
営業損益 前年度から改善

- 売上の増加や受注工事損失引当金の戻入などにより改善



LPG運搬船「GALAXY RIVER」

潜水艦



車両事業

受注高 前年度並み

- シンガポールLand Transport Authority新線向け地下鉄電車などを受注したものの、北米向けや国内向け大型案件のあった前年度並みの水準

売上高 前年度より減収

- 北米向け売上等の減少などにより減収

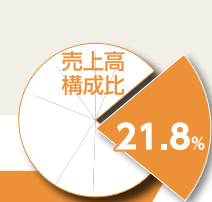
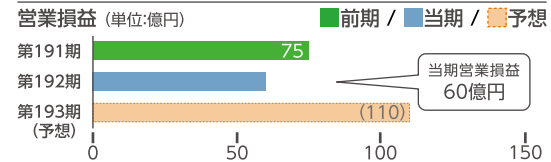
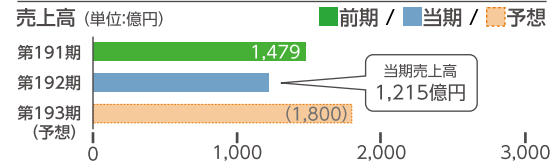
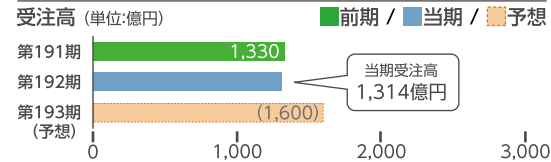
営業利益 前年度より減益

- 売上の減少や利益率の低下などにより減益



西日本旅客鉄道株式会社向けW7系 新幹線電車

フシントン首都圏交通局向け7000系 地下鉄電車



航空宇宙事業

受注高 前年度より大幅な増加

- 防衛省向けやボーイング社向け787分担製造品の受注などにより増加

売上高 前年度より増収

- 防衛省向けやボーイング社向け777・787分担製造品の増加などにより増収

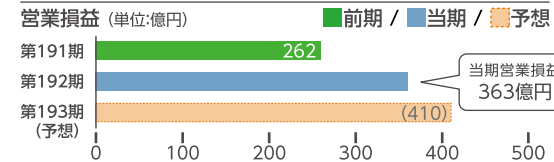
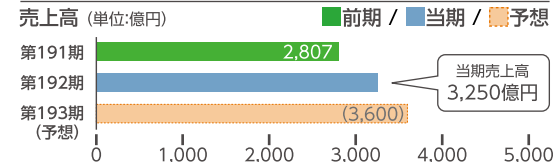
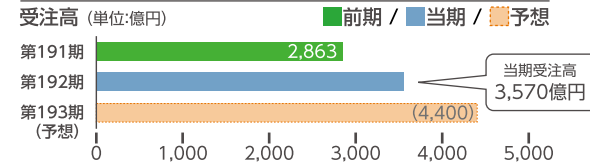
営業利益 前年度より増益

- 売上の増加や円安の影響により増益



P-1 固定翼哨戒機

川崎式BK117C-2型ヘリコプタ



ガスタービン・機械事業

受注高 前年度より増加

- 航空エンジン分担製造品や産業用ガスタービン、天然ガス圧送設備などの受注により増加

売上高 前年度より増収

- 航空エンジン分担製造品や水力機械などの増加により増収

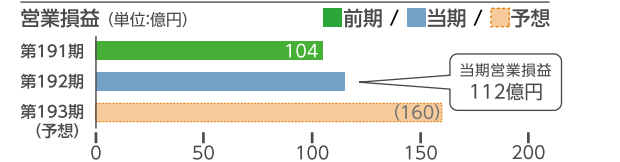
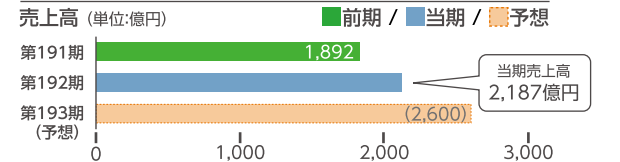
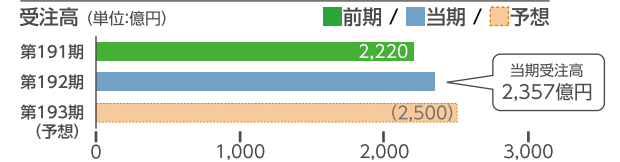
営業利益 前年度より増益

- 航空エンジン新規プログラムの開発費償却や研究開発費などが増加したものの、売上の増加などにより増益



エアバスA350XWB用Trent XWB エンジン

国内累計生産5,000台を達成した川崎サイドスラスト





プラント・環境事業

受注高 前年度より大幅な増加

- ガス・ター・ガソリンプラント、ボイラ発電設備などの受注により増加

売上高 前年度より増収

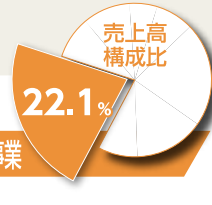
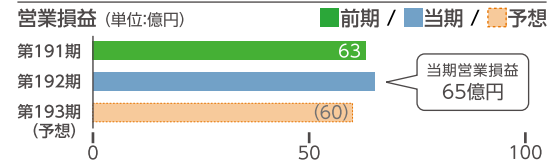
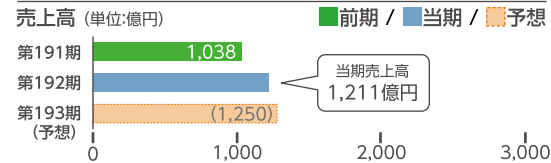
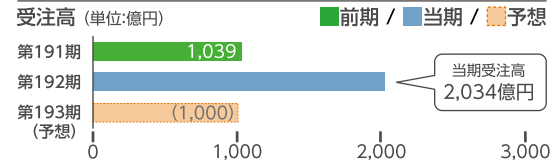
- LNG貯槽プラントやボイラ発電設備等の進捗などにより増収

営業利益 前年度並み

- 売上が増加したものの、利益率の低下などにより前年度並みの水準



SNNC フェロニッケルプラント 2期能力増強プロジェクト
JX日鉱日石エネルギー株式会社 八戸LNGターミナル向け LNGタンク



モーターサイクル&エンジン事業

売上高 前年度より増収

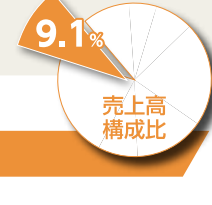
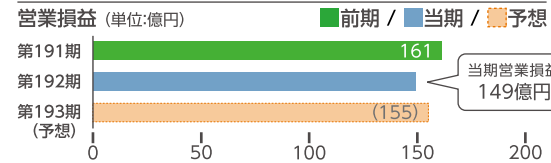
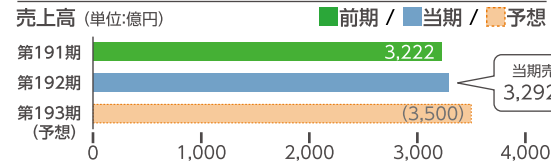
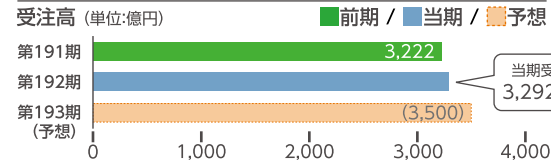
- 中南米向けやタイ向け二輪車が減少したものの、四輪車や欧州向け二輪車の増加により増収

営業利益 前年度より減益

- 主に新興国における競争激化や固定費の増加などにより減益



Ninja H2 VULCAN S



精密機械事業

受注高 前年度より増加

- 自動車産業向けをはじめとする各種ロボットの受注などにより増加

売上高 前年度より増収

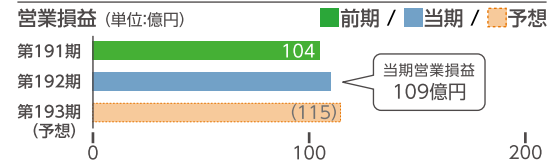
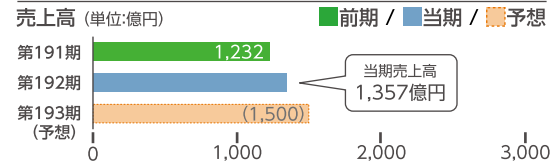
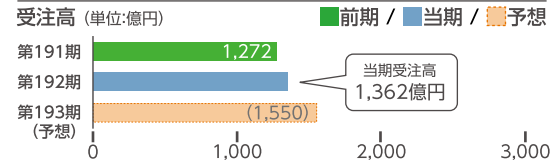
- 油圧機器が前年度並みだったものの、自動車産業向けを中心とする各種ロボットの増加などにより増収

営業利益 前年度並み

- 売上が増加したものの、利益率の低下などにより前年度並みの水準



パレタイジングロボットCP180L 建設機械用新型油圧機器



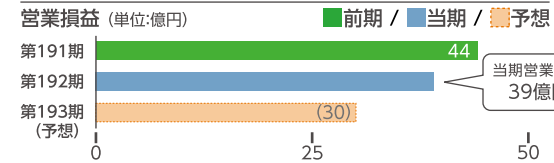
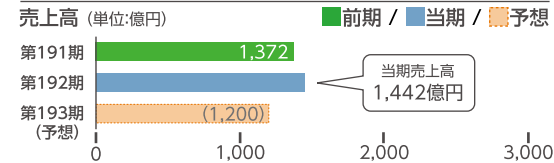
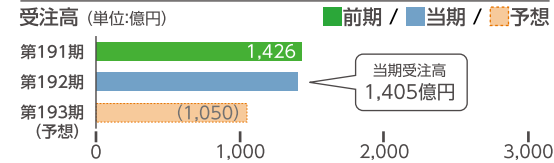
その他事業

売上高 前年度より増収

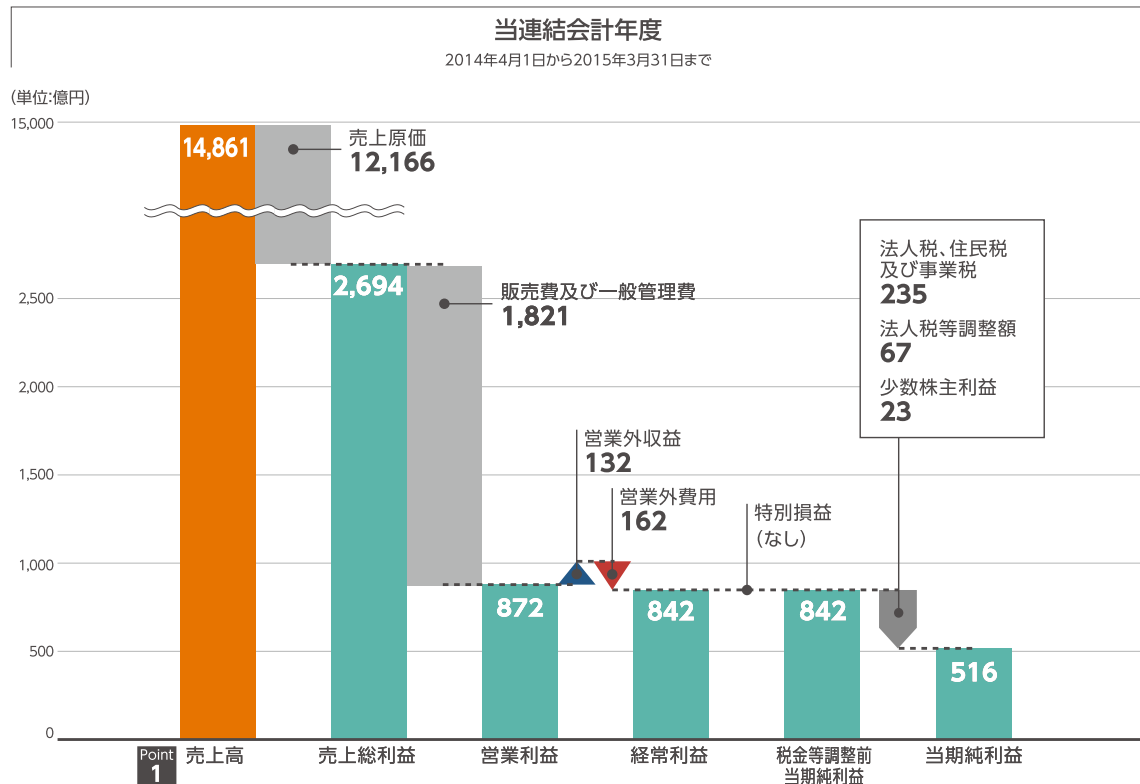
営業利益 前年度並み



カワサキホイールローダ[90Z7] 岩岡メガソーラー発電所



連結損益計算書の概要

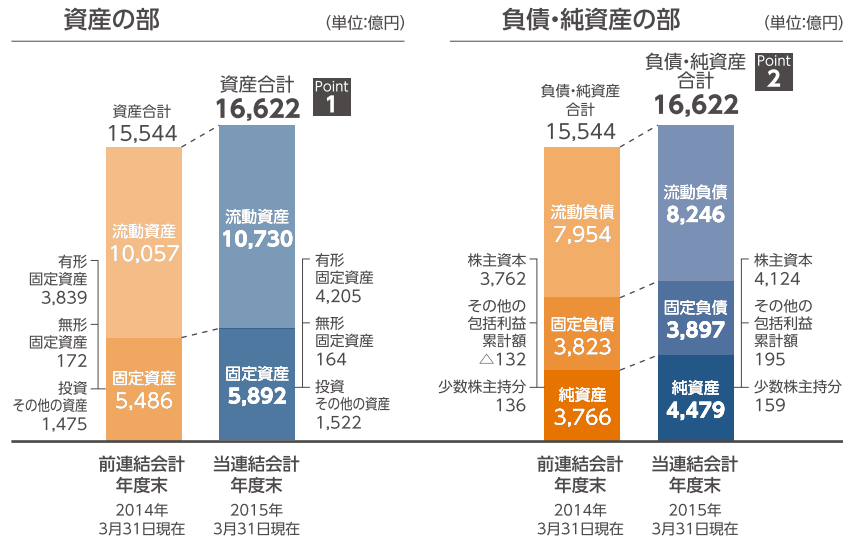


Point 1 総資産回転率 (0.89回転) = $\frac{\text{売上高 (14,861億円)}}{\text{総資産 (16,622億円)}}$

総資産回転率とは、企業が保有する資産をどの程度効率的に活用しているかを測る指標です。当社は「グループ経営モデル2018」において1.00回転以上を目標として掲げており、今期に

おいては、売上の増加があったものの、棚卸資産（流動資産の一部）の増加や設備投資による有形固定資産の増加などにより総資産が増加したため、前期並みの0.89回転となりました。

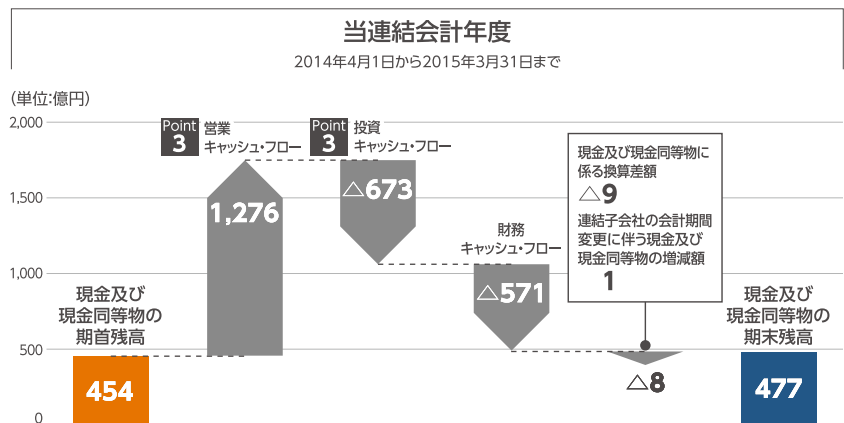
連結貸借対照表の概要



Point 2 負債・純資産の概要

- 負債は、借入債務の削減に努めたものの、受注案件の手付金等の前受金や買掛債務の増加などにより前期末に比べ増加しました。
 - 純資産は、配当金の支払いなどにより減少したものの、当期純利益の計上や円安に伴う為替換算調整勘定*の計上などにより前期末に比べ増加しました。
- * 海外子会社への投資額を円換算した場合の調整額

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



Point 3 キャッシュ・フローの概要

- 営業キャッシュ・フローは、前期に比べて減少しましたが、税引前利益が増加したことや、運転資本の圧縮に努めたことにより、高水準を確保しました。
- 投資キャッシュ・フローは、設備投資額が減少したことや前期に設備投資の支払いが集中したことなどにより前期に比べ減少しました。
- 営業キャッシュ・フローから投資キャッシュ・フローを控除して算出するフリー・キャッシュ・フローは前期に比べ減少しましたが、引き続き高水準を確保し、借入金の返済や配当金の支払いなどに充てました。

※さらに詳しい財務関連情報は当社ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。 URL : <http://www.khi.co.jp/ir/index.html>



【工場】西神戸工場
【所在地】兵庫県神戸市西区
【生産品目】油圧機器および装置、船用機械、その他

西神戸工場

今回の工場見学会は西神戸工場です!

川崎重工では、株主の皆様によりいっそう当社への理解を深めていただくことを目的に、工場見学会を実施しております。このたび、第6回目となる工場見学会は西神戸工場で開催いたしますので、本案内をご覧のうえ、この機会にぜひご応募ください。

見学場所

当工場では、建設機械等の動力源である油圧機器や、各種船用装置を製造しています。これら小型ながら大きな力を生み出す油圧製品の製造現場と、自動車の溶接ラインをイメージした産業用ロボットのデモラインを、ぜひご覧ください!



建設機械用油圧機器



舵取機



産業用ロボットデモライン



応募要項

■対象者

2015年3月31日現在、当社株式1,000株以上をご所有の株主様ご本人(ご同伴者様1名まで可)
※12歳未満の方の見学には、必ず成人の方が同行してください。

■参加費 無料

(但し、集合・解散場所(明石駅を予定)までの往復交通費は株主様のご負担とさせていただきます。また、昼食のご用意はしておりませんのでご了承ください。)

■締切日 2015年8月17日(月) [必着]

■ご応募前の確認事項

- ご応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。厳正な抽選のうえ、結果はご応募いただいた株主様全員に、2015年10月中旬までに郵送にてお知らせいたします。
- ご応募の際に、記載事項に漏れなどの不備がございます場合、無効とさせていただきます。
- ご応募により当社が取得する個人情報は、本工場見学会を実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。
- ご見学時は1時間程度(予定)の徒歩移動、バスの乗り降り及び階段の昇り降りがございますので、あらかじめご了承ください。
- ご見学時は写真・ビデオ撮影はお断りさせていただいておりますので、あらかじめご了承ください。
- 株主様と、ご記載されたご同伴者様のみ参加できます。なお、当日は別のご同伴者様がご越しいただいても、手続きの関係上、ご見学いただけませんのであらかじめご了承ください。
- 当日は集合・解散場所(明石駅を予定)の周辺には当社が用意している駐車場がございますので、公共交通機関でお越しください。また、工場へ直接ご来場いただけませんので、ご注意ください。

■応募方法

参加を希望される日時を下表の申込番号(①~④)からひとつだけお選びいただき、下記のとおり郵便はがきに、21ページ左上の応募券を貼り付け、必要事項を記入のうえ、ご応募ください。(郵送料につきましては株主様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。)

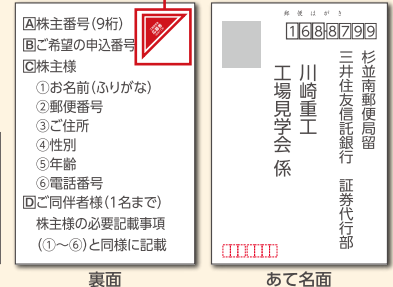
申込番号	日程	時間
①	2015年11月12日(木)	9時より約3時間(予定)
②	2015年11月12日(木)	14時より約3時間(予定)
③	2015年11月13日(金)	9時より約3時間(予定)
④	2015年11月13日(金)	14時より約3時間(予定)

定員は各40名(同伴者を含みます。)

応募券の貼り忘れにご注意ください。

※株主番号掲載箇所

本紙と一緒に同封している「送付票」に株主番号が記載されています。



お問い合わせ先 川崎重工業(株)株主名簿管理人 三井住友信託銀行(株)証券代行部
(工場見学会専用) ☎03-6743-3220 営業時間 9時~17時(土・日・祝日を除く)

楽しく体験!陸・海・空のテクノロジーワールド

カワサキワールド

Kawasaki Good Times World

所在地 〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号
開館時間 10時~17時(入館は16時30分まで)
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館)
年末年始(12月29日から1月3日)
お問い合わせ TEL:078-327-5401 FAX:078-327-5402
<http://www.khi.co.jp/kawasakiworld/>

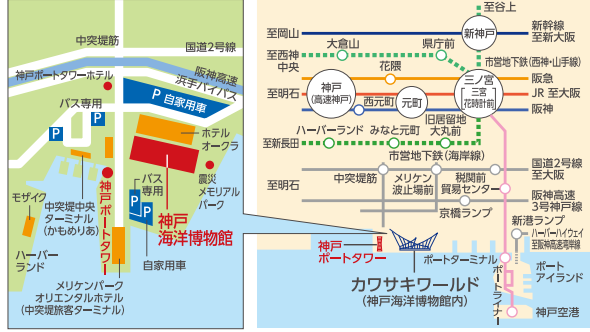
- 飛行機で
「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で
「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で
市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分
神戸高速(阪急・山陽)「花隈駅」から徒歩約15分
- シティーブープで
「地下鉄三宮駅前(南行)」乗車約15分
「中突堤(ポートタワー前)」下車徒歩1分
- 車・タクシーで
JR・阪神・阪急「三宮駅」から約10分
JR・阪神「元町駅」から約5分
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分
ハーバーハイウェイ「新港ランプ」から約5分
※周辺には駐車場(有料)があります。

神戸海洋博物館入館料

大人	600円	小人(小学生)	250円
----	------	---------	------

※入館料には、各種割引があります。
※カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

交通案内



切り取ってご利用ください

川崎重工業株式会社 工場の際は本券を切り離してご持参ください。

ご利用日	年	月	日
ご利用内訳	大人	小人	名